

前回審議会での議事（要点整理）及び今回審議会での審議内容

令和3年11月5日（金）開催の播磨町学校給食審議会（第2回）において審議を開始した「学校給食費の額の妥当性について」の議事の要点は、概ね次のとおりと考えられます。

（1）学校給食費の額の見直しの必要性について

（見直しを許容する方向の意見）

- ・ 学校給食費の額が問題で安価な食材に偏るのであれば、見直しも必要と思う。
- ・ 消費税率や物価の上昇状況からすると見直しの必要性はあると思う。
- ・ 飲用牛乳（固定費的な経費）が、かなり増額していることが読み取れる。

（見直しに否定的な方向の意見）

- ・ 安いに越したことはないという意見もある。
- ・ 現行の額で賄えているのであれば、増額して欲しくない。

（どちらの方向にも適用される意見）

- ・ 児童が考えた献立や新メニューの導入等、現行の作り手側の工夫は前向きに評価できる（今後も作り手側の工夫で何とかできるのではないかと期待）。
- ・ 一方で作り手側の工夫も限界を迎えようとしている印象も受ける（これ以上の単価抑制を図ると品質が維持できないのではないかと不安）。

（2）学校給食費の額を見直すための基準について

次の主旨の意見から、「あらかじめ基準を設けることは困難である」とする方向での答申に集約可能と思われるため、第3回審議会にて方向性を決定する。

- ・ 保護者の立場では基準については意見し難い。
- ・ 教職員の立場でも基準については意見し難い。
- ・ 基準については、関係者の議論よりも作り手側の意見が重要だと思う。
- ・ 何かが生じてから見直す流れならば分かりやすいが、予め基準を設けることは難しいように感じる。
- ・ 作り手側の工夫に限界が訪れて突然増額するよりは、限界が訪れる前に増額の方向性を示した方が良いように思う。

（3）学校給食費の額を定期的に見直す必要性について

（直接的な言及ではないため、参考意見）

- ・ 前回の額の改定時期と比較して、消費税率や物価は上昇しているため、当時の子どもたちと今の子どもたちとは、同等（同品質）の学校給食ではない（一定の世代間格差が認められ、現行の額の妥当性には疑問がある）。
- ・ 過去の学校給食と比較すると行事食や食材料が廉価品に置き換わっている現実はある（ショートケーキがカップケーキに、牛肉が鶏肉や豚肉になる等）。

（4）学校給食費の見直しの間隔について

（前回審議会での言及なし）